

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(101)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(101)—

1. 始めに

前報(100)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽協奏曲です。

TELDEC 6.43320 AH

モーツアルト ホルン協奏曲 1 番～4 番

Hermann Baumann (ホルン)

Leopold Hodger 指揮 **Morzarteum Orchester Salzburg**

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

TELDEC 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

モーツアルトのホルン協奏曲の全曲が収納されていますが、収録の順は 1 番→4 番→2 番→3 番です。

1 番は、お馴染みの曲で明るく浮き浮きするような表情です。

4 番は、演奏時間がもっとも長く形式がととのってきています。

2 番は、1 番によく似た表情ですが、ダイナミックなところがあります。

3 番は、これも 1 番と同様お馴染みの曲で、1 番の完成度があがった印象です。

盤質はあまりよくないのですが、全体を通して **Baumann** のホルンの響きが朗々と響く様子が聴き取れます。

Hodger 指揮 **Morzarteum Orchester Salzburg** は、その名のとおり、モーツアルトを得意とするアンサンブルのようで、盤質の関係で真価が把握しにくいところがありますが、明るく爽やかな演奏を聴かせてくれます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果が、盤質はよくないもののホルンの響きなどに現れています。

以上/